

サニナビ

北九州



北九州市保健所
 東部生活衛生課
 広域食品指導係
 小倉北区馬借 1-7-1
 4階
 TEL 093-583-2048
 FAX 093-583-2044

有害生物による異物混入について

今年に入り、大手外食チェーン店で、ネズミや虫の混入が複数件発生しています。製造した食品や給食で、これらの事案が発生すると、苦情の原因になるだけでなく、施設に病原微生物を持ち込む原因にもなります。また、昨今ではSNSの普及により、そのような情報がすくなく広まってしまふ可能性もあります。

暑さが本格的になり、昆虫等の活動が活発になる前に、次の3つのポイント確認しましょう。

① 5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)

5Sは衛生管理の基本です。例えば床下や冷蔵庫の最下段に食品残渣が残っていることがあります。食品残渣は有害生物の餌となり、発生と繁殖の原因になります。また、作業場に不要な物が沢山置かれていたり、有害生物にとっては卵を生むのに好都合な環境となります。

(5Sの例)

食品残渣が作業場に残らないように清掃する。特にフライヤーの油は、ゴキブリの大好物のため、フライヤー周辺は特に清潔に保つ。



排水溝やグリストラップも頻度を決めて清掃する。

小麦粉などの常温保管品は開封後、蓋付きの容器に保管する。

納品に使用された段ボール箱は、害虫の卵が付着していることがあります。納品後は、専用の容器に移し替え、段ボール箱を厨房内に持ち込まない。

段ボール箱は、カビの発生や破片の混入につながる恐れもあり、不衛生なものです！



② 点検、生息状況の把握

有害生物が外から侵入するのを防ぐため、以下の例を参考に、定期的に施設の点検、修繕等を行います。また、作業場のどこに、どれくらいの有害生物が生息しているかを把握することで、効果的に駆除することができます。

(例)

- ・ 網戸に破れがないか確認し、必要に応じて補修する。
- ・ 排水溝にねずみ侵入防止の蓋等がされていること。
- ・ 天井、壁や窓に隙間がないこと。

・ ゴキブリは冷蔵庫のモーター部やレンジ下など、湿った温かい場所を好むため、定期的に生息状況を確認すること。

ココ！
開けてみて下さい



③ 専門業者や施設管理者との連携も必要

有害生物は、自身である程度コントロールできても、完全に駆除することは難しいため、定期的な生息調査と駆除を専門業者に依頼しましょう。

ビルのテナント等で営業している施設では、施設全体で広く対応しなければ効果的な駆除が行えない場合もあります。施設の管理会社等に、施設全体で取り組んでもらえるよう働きかけましょう。

異物混入は有害生物以外でも発生

最近も、学校給食にザルの破片、蛍光灯のガラス片など、全国的に異物混入が相次いで発生しています。



異物混入防止の対策について、主なポイントをご紹介します。

① 作業時の服装

- ・ 作業着、帽子は毎日清潔なものを着用する。
- ・ 帽子は耳まで、マスクは鼻まで覆つ。
- ・ アクセサリー類は全てはずす。

② 持ち物

- ・ 異物混入の原因となりやすいもの（鉛筆、ホッチキス、キャップ付きボールペンなど）や不要な私物を持ち込まない。
- ・ 休憩用の飲料や携帯電話を持ち込む場合は、食品や器具から離れた場所で、カゴ等に入れて管理する。

③ 調理器具の清掃・点検

- ・ 異物混入につながりそうな部品をリスト化して、点検表を作成する。
- ・ 調理器具の個数や保管場所を定める。
- ・ 作業の前後で、機械器具の破損や部品の欠落がないか点検する。
- ・ 定期的な設備や機器のメンテナンスと補修を行う。
- ・ 使用している器具が劣化したら、補修するか、新しいものに交換する。

今年も猛暑が予想されます。食中毒に注意しながら、また異物混入についても、より一層気を引き締めて、出来ることから対策しましょう。

編集後記

今月の写真は農事センターのバラです。農事センターでは、6月1日まで春のバラフェアが行われています。